

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ～す
<https://japan.otakaranews.com>

じゃぱんお宝にゅ～す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！



モーション・プラスチックに新たな可能性

イグス 日本法人設立30周年 日本でも様々なプロジェクトを推進

イグス本社(ケルン) ⇄ 東京 ⇄ 韓国 = ON LINE

日本法人設立30周年

じゃぱんお宝WEB新聞 Vol.148号に続き、Vol.149号では、イグス日本法人の現状と今後の取り組みについて北川邦彦社長が報告した。

本紙 Vol147号でも既報した通り、イグスは1990年に商社の株式会社キャプテンインダストリーズの協力のもと、日本国内に合併会社を設立。その後、2003年に株式会社イグスをドイツ・日本の両国に設立したのを契機に、合併会社のイグス・ジャパンを移行。翌2004年に東京・錦糸町に移転し、イグス ドイツ本社の100%子会社として幅広い産業分野を支える様々な高機能モーション・プラスチック製品を提供している。

工場はISO 14001取得

北川社長によれば、イグスは日本国内で“グリーンイグス”を提唱している。

2017年に中国が国内での環境汚染等を理由に、プラスチックの輸入規制を実施したことで、代わりに東南アジア諸国へのプラスチックの輸出が増加。これが環境汚染を引き起こしていると



指摘されている。その結果、東南アジア諸国においても輸入規制が施工されている。

この問題を解決するため、バーゼル条約第14回条約国会議(COP14)で新たな条約改正が決議され、これまで主に中国へプラスチック廃棄物を出していたものを、現状では日本国内で循環せざるを得ない状況になっている。

日本国内における取組

こうした状況に対し、現在イグス日本法人は国内で様々な取組を実施している。

1つ目は、大学と効率的かつ経済的な化学リサイクル(油化：ケミカルリサイクル)の共同研究を実施している。同研究は、2022年に大学がベンチャー化も計画されている。



イグス 日本法人の北川邦彦社長

2つ目は、イグスは現在、別の企業とサーマル変換の共同開発プロジェクトに参加している。廃プラスチックは移動の制限等もあり、数量限定の政策になる見込み。

3つ目は、イグスが独自にプラスチック素材を再利用して別の物を作るという取り組み。現在案件を募集している。

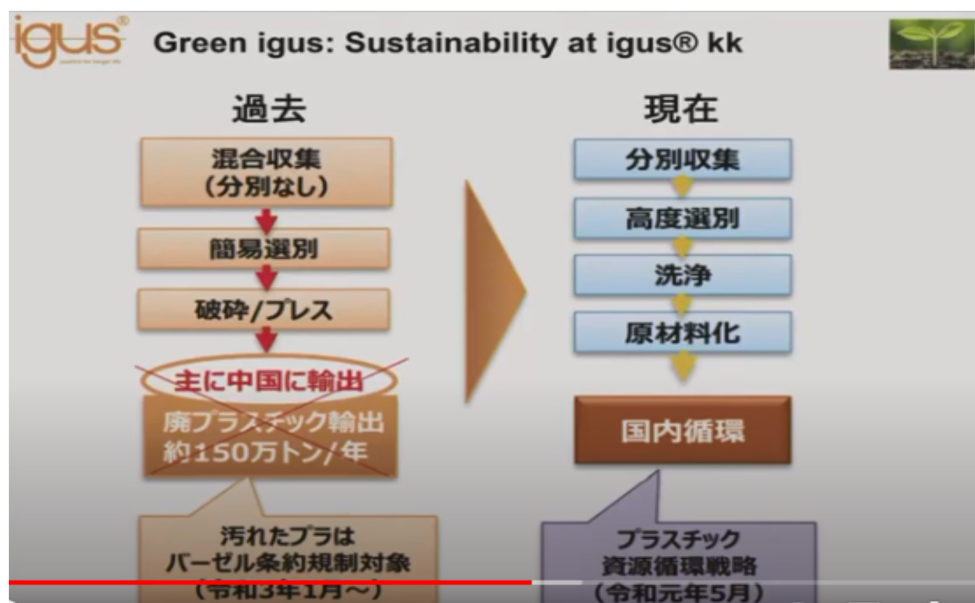
例えば、公共施設で利用されるプラスチック製のチェア、公園の遊具等を作るなど、いろいろ模索しながら話を進めている。

4つ目は、廃棄プラスチックの国内

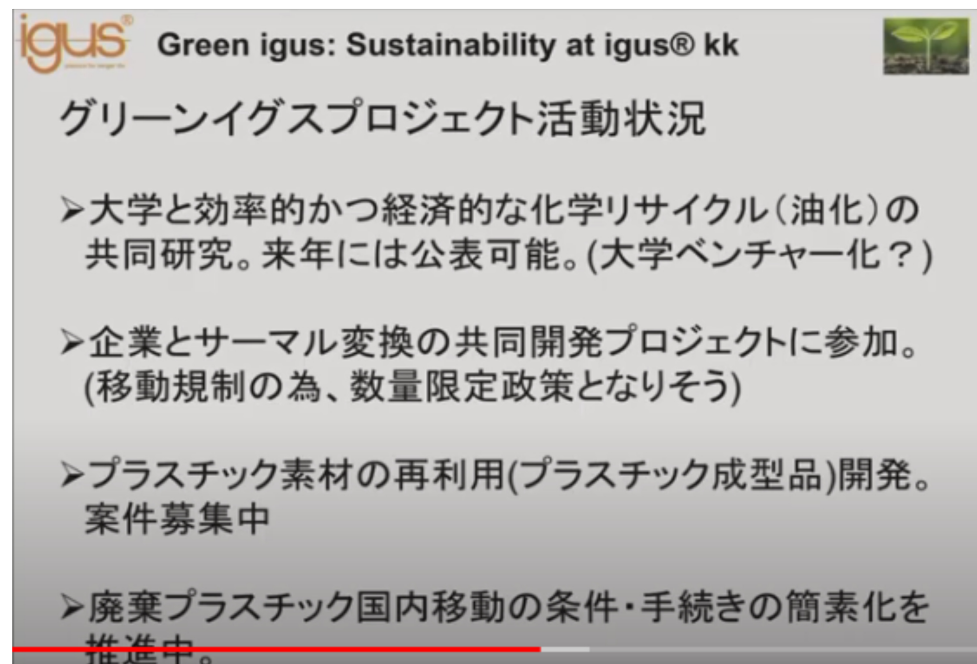
移動。

廃棄プラスチックは産業廃棄物になり、移動に様々な制約が課せられている。これを簡素化しないと日本全体として廃棄プラスチックの有用な利用が不可能であるため、他業者と一緒に進めている。

「イグスとしては、廃棄プラスチックを燃やして煙にして何も残さないところを、燃やせばCo2が排出されるため、これは避けたいと考えています。(次ページに続く→)



環境・リサイクルなど 持続可能な社会に向けた取り組みを推進





モーション・プラスチックに新たな可能性

イグス本社(ケルン) ⇄ 東京 ⇄ 韓国 = ON LINE

“Green IGUS: Sustainability at IGUS” 持続可能な社会に向けたプロジェクト推進

イグス日本としては、ローコストオートメーション、IoTを活用し、スマートプラスチックを使った形で、よりお客様にメリットがでる形で対応させていただいております。

一例ですが、最近とくに飲食店様の方から当社のローコストロボティクスの需要が出てきております。

また、3Dプリントに関しては、100以上の素材を混ぜ合わせて製品に使用しています。

3Dプリント製品は、潤滑剤を使用する必要がなくなるという、これが最大の特長になっています。

先ほどの説明にもあったように、ものすごい量の潤滑油が使用され、そして廃棄されています。

イグスとしては、お客様のコストアップにならない、コストダウンにつながる、しかもテクノロジーアップで技術的に高いものを供給することでお客様の製品の付加価値をさらに高めることができることはお客様共通の願いであると思います。それを叶える形でわれわれはプラスチック製品の開発を材料も含めて行っております。

とくに顕著なのが、スライドテーブル、リニアガイドと言われるもので、これが設置面積と高さの比が今までは2対1だった。これを5対1、つまり5倍の高さのところまで、これはモーメントがあるため、台座のところがブレーキがかかる物理的な現象がある。これを5対1になるように材料及び商品開発を目指しています。

お客様からはいろいろな要求はありま

すが、お客様の本質的なところはあまり変化していないのではないかと感じています。

国々により、いろいろな規制があります。イグスは各国の規制に準拠した3Dプリント製品を提供しています。

また、それ以外にもお客様の様々な要求に対し、イグスは独自の研究・開発でお客様の要望にお応えしています。

例えば、半導体関係でも表面に電化が溜まらない、通常プラスチックは不動態ですからチャージが上に溜まってデイスチャージ、つまり放電することによって表面を傷めてしまうことがあります。そういうことがない材料を、今までわれわれイグスとしては出していましたが、3Dプリント製品の材料としてそういうものを使っていくことも考えています」と北川社長。

世界中で環境意識が高まる中、イグスのたゆまぬ努力に対し、社会、産業界からも大きな期待が寄せられている。

2020年の業績 今後の業績予測

イグスの2020年の日本市場における業績は、コロナ禍の影響があったものの、小幅なマイナスで2021年を迎えている。北川社長の説明では、現状はよい意味でのリバウンドもあり、同社だけでなく、材料関連業界を含めて忙しい状況を迎えていると予測する。

北川社長は、「これで新たな変異ウイ



イグス 日本法人の北川邦彦社長

ルスが悪さをしなければ、このままの調子で行くだろうと考えています。

記録的な売り上げ、記録的な受注をわれわれは“レコードブッキング”と呼んでいますが、そこを目指して頑張っていきたいと考えています」と強調した。

今回のカンファレンスでは新製品、新提案も多数発表された。

本紙は、それらの最新ニュースを別項で本サイトから情報発信する。

※以下の写真3点はいずれも注目の新製品、新提案です。

